

カンボジア訪ね報告

高専の小池さんら

第一学院高校で

国立長野高専5年生の小池優太さん(20) 三本柳東さんと、国際貢献活動に取り組む大場淳治さん(56) 大町市IIの2人が16日、第一学院高等学校長野キャンパスII岡田町IIを訪れ、生徒とカンボジアの子供たちとの手紙を通じた交流を橋渡しするため9月に同国を訪問した際の報告会を開いた。

第一学院高等学校長野キャンパスは、大場さんの仲介で13(平成25)年からカンボジア

の孤児施設や二つの小学校の子供たちと手紙で交流。昨年現地に手紙を届ける予定だった大場さんが都合で行けなくなり、今年3月に学校の研究でカンボジアを訪問した小池さんに手紙を託した。

小池さんは調査の合間に手紙を届けたが交流の時間がなかったことから、9月6〜11日に大場さんと再度訪問。3月に届けた手紙の返事100通を持ち帰り、この日に生徒に手渡した。報告会には生徒20人が参加。小池さんは子

カンボジアの様子を報告する小池さん



が、まだ地雷が埋まっている現状に恐ろしさを感じた」と話した。現地の子供たちが手紙を楽しみにしていることも伝え、これからも続けてほしいと呼び掛けた。

返事の手供たちと交流した写真や、小学校のあるエリアで地雷問題に取り組むNPO法人を視察した写真をスクリーンに映して紹介。「一見のどかに見える風景だ

紙を読んだ高校2年生の関愛子さん(16)は「カンボジアの子供のかわいい姿を見て心が温まった。また手紙を書きたい」と話していた。